

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	平成29年度第1回高松市男女共同参画推進懇談会（平成29年度第1回高松市男女共同参画推進協議会）
開催日時	平成29年8月8日(火) 10時00分～12時00分
開催場所	高松市役所4階 会議室
議 題	(1) 会議の公開について (2) 第4次たかまつ男女共同参画プランの進捗状況について (3) たかまつ女性活躍促進事業の平成28年度実績及び29年度実施予定について (4) 素敵にたかまつ女性活躍企業表彰制度の見直しについて (5) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	井原会長、蓮井副会長、石田委員、岩崎委員、佐々木委員、高嶋委員、徳増委員、仁賀委員、吉岡委員
傍 聴 者	0人 (定員 5人)
担当課及び連絡先	政策課男女共同参画推進室 (839-2275)

会議経過及び会議結果

(1) 会議の公開について

本懇談会では、個人情報等、非公開となるような事項の審議は想定されないことから、今後の会議について公開とすることとした。

(2) 第4次たかまつ男女共同参画プランの進捗状況について

(事務局説明)

(委員)

次年度に向けた取組について説明があったが、待機児童問題、コミュニティ協議会の会長・副会長の女性割合の問題、DVにおける対策等、問題解決に繋がるような具体策の提示がない。

(事務局)

第4次たかまつ男女共同参画プランにおいても、様々な指標を設定し、取り組んでいる。例えば、人権問題における指標は、他の計画でも設定されているが、男女のプラン同様に低い達成率となっており、今後努力が必要な指標である。また、待機児童問題等については、具体的な施策をどのように推進していくかが課題であるが、予算確保等対策に努めていきたい。また、コミュニティ協議会への女性の参画については、意識改革が必要であり、女性活躍推進の視点も持ちながら、問題解決に向けて前進していきたいと考えている。

会議経過及び会議結果

(会長)

評価指標の設定において、AやBが並びやすい指標をとる方法もあるが、第4次たかまつ男女共同参画プランでの評価指標の設定は、課題に取り組むという意味で、適切であったとして事業を推進してほしい。

(委員)

DV被害相談実人数における指標については、事務局も課題を認識しているようであるが、DV被害自体の増減がわかる指標も必要ではないか。

(会長)

どのような指標が事業を的確に評価することができるのか、検討する必要がある。ただ、既に設定された指標を数字だけで見るとはならず、そこから何を読み取るのかが大切である。

(事務局)

評価指標の数値目標については賛否両論あるが、D評価等低い評価を「見える化」していくことは、プラスと捉えている。D評価をどう改善していくかが、行政に問われているわけだが、行政と地域との関係を深めていく中で解決していきたい。

(委員)

DV被害相談実人数について、相談者の増加は、行政の相談窓口が評価されている表れだと思う。今から指標を見直しすることはできないのか。また、待機児童問題について、保育所(園)に入所(園)できないため、母親が就職できないという現状もあり、定員増は、喫緊の問題である。放課後児童クラブの待機児童数も増加しており、母親の就業に影響する問題である。

(事務局)

DV被害相談実人数の指標については、第4次たかまつ男女共同参画プランとして設定しているため、現時点での見直しはできないが、必要に応じて説明することで補足していきたい。指標のあり方については、次期プランにおける検討課題と考えている。また、放課後児童クラブ待機児童数の増加についてであるが、対象児童を全学年に拡大したため、待機児童数が大幅に増加している。これらの課題も含め、D評価となっている指標については、今後、担当課を中心として、改善に向けて取り組んでいきたい。

(委員)

避難所運営における女性の視点の生かし方、介護問題等、課題は多数あるが、地域包括ケアを推進することで解決するのではないか。

(委員)

地域防災において、女性の参画を推進するために、新しい防災の考え方として、志を持った女性を育てるという意味で、「防災“志”」としての女性の育成に力を入れている。一方で、女性活躍を推進するために、香川県・高松市がセミナー等を開催しているが、テーマが似通っている、講師等の偏り、若年層や男性の参加が少ないなどの課題がある。

(委員)

コミュニティ協議会が組織されてから10年になる。自治会の加入率の低下が近年の大きな課題であるが、女性役員が育ちにくい構造になっているこ

とも問題である。

(委員)

地域には、自治会の他に、PTAや保健委員会などがあり、他の組織と連携して改革を検討してはどうか。

(会長)

これらの問題は、多面的に協議していく必要がある。今後、課題に取り組んでもらいたい。

(3) たかまつ女性活躍促進事業の平成28年度実績及び29年度実施予定について

(事務局説明)

(委員)

セミナー参加者の人数が少ないが、平日開催が原因ではないか。

(事務局)

セミナーは、企業研修として社員に参加してもらうことを意図している。

(委員)

アドバイザーの派遣対象は、従業員300人以下の中小企業としているが、香川県内は、小規模の企業が多いため、小規模の企業を対象としなければ、高松市内でも広がらないように思われる。

(事務局)

昨年度の企業表彰においては、小規模の企業等の応募もあったことから、アドバイザー派遣対象企業としては、企業の規模というよりは、事業主行動計画の策定義務のない300人以下の中小企業と捉え、支援したい。

(会長)

セミナー開催日については、土曜日開催を検討してもらいたい。
香川県も企業表彰をしているが、どのような調整をしているのか。

(アドバイザー)

香川県も、他の表彰と重ならないように企業の選定を行うなどの調整はしているが、該当する企業は限られてくるため、同一企業の表彰について、一定の割合については、避けられないと思われる。

(会長)

表彰に値する企業というのは、どこから見ても評価できるということか。

(アドバイザー)

先進的な企業については、さらに取組を促進してもらい、その後続く企業を広く評価していきたいと思う。

(事務局)

高松市も、アドバイザー派遣の対象企業については、香川県と調整している。

(委員)

今年度における、高松市の男女共同参画週間記念講演会の講師と香川県のがわ働き方改革セミナーの講師は、同一人物であった。テーマが異なっていたので、よかったと思われるが、高松市は、香川県とは違う取組を推進していくと、より効果的であると思われる。

(委員)

平成28年度女性活躍促進事業実績報告の中に、事業主行動計画策定企業が5社とあり、内容を確認するため、ホームページ等を検索したが、確認できなかった。内外への公表義務があるため、指導願いたい。

(事務局)

国への届出が完了していることは間違いないが、公表の状況については、再度確認する。

(会長)

平成29年度の取組としては予定どおり、平成28年度の表彰企業による事例発表会やアドバイザーによるミニ相談会の開催等を行うということで進めてください。

(4) 素敵にたかまつ女性活躍企業表彰制度の見直しについて

(事務局説明)

(委員)

チェック項目は、これから検討するのか。

(事務局)

これから検討する。点数による評価ではなく、チェック項目による認定制度である。

(委員)

事業主行動計画策定企業と表彰企業の中に、同一企業がある理由は何か。

(事務局)

事業主行動計画の策定については、女性活躍推進法の中で努力義務となっていたため、表彰の条件とはしていなかったもので、企業表彰に応募してきた企業等のうち、事業主行動計画をまだ策定していなかった企業等については、策定を促したことにより、同一企業が含まれるという結果となった。この表彰をきっかけとして、さらに女性活躍の推進に取り組んでほしいと考えている。

(委員)

表彰企業等の中には、女性活躍の先進的企業が複数含まれている。このような企業等にアドバイザーを派遣する必要があるのか。企業表彰とアドバイザー派遣は別で動くべきではないのか。

(事務局)

企業表彰とアドバイザー派遣は、基本的に別で動いているが、企業表彰は、さらなる女性活躍推進のきっかけと考えており、応募企業が事業主行動計画をまだ策定していなければ、策定に向けてアドバイザーがサポートする

ことは、事業として必要だと思われる。昨年度は、事業期間が短かったこともあるが、企業表彰・アドバイザー派遣ともに対象を広く捉えていく努力もしていきたい。

(アドバイザー)

香川県でも、アドバイザー事業を委託して取り組んでいる。数百社を訪問しており、その中には、表彰企業も含まれる。事業を広く推進していくためにセミナー等開催しているが、やはり、中小企業も大企業もトップの意識改革が必要であり、どのように意識改革をするかが重要である。トップの意識改革が困難である場合は、人事担当者働きかけている。

(副会長)

働き方改革となると、労働時間の短縮や女性管理職を増やすといった議論になりがちだが、人間として生き方をどう変えていくのかを考えていくべきではないか。

(会長)

男女共同参画は、浸透してきていると思われるが、課題は多い。女性が生き生きと活躍できるような視点で、女性活躍推進に取り組んでもらいたい。企業表彰制度の見直しについては、提案どおりとしたい。

(委員)

表彰について、企業はメリットとして捉えているのか。結局、広く募集というよりは、アドバイザーを派遣した企業が応募企業となるのではないか。魅力ある制度にしていく努力が必要かと思われる。

(事務局)

高松市では、移住施策を進めている。その中に、企業が移住者をサポートする移住応援隊という取組があり、サポーターになる要件の一つとして、職業生活における女性活躍、子育て支援、ワーク・ライフ・バランスの推進に関して、国・香川県・高松市のいずれかから、表彰・認定を受けていることとしている。高松市としては、移住応援隊のサポーターになることで、女性活躍における優良企業であるとアピールできると考えている。また、移住の制度等活用して企業をサポートしていく形で、企業と高松市が、お互いWin・Winの関係になるよう、移住と女性活躍の施策を連携させて取り組んでいるところである。

(会長)

優秀な女性を採用できるというメリットをアピールしてほしい。高松市は小規模であっても働きやすい会社が多数存在する市である、と認知されることが理想である。是非、この認定制度が広がるよう協力いただきたい。また、これらの事業が地域の活性化に繋がるよう取組を推進してもらいたい。

(その他) なし

(閉会)